

Possible involvement of innate immune cells expressing the macrophage galactose-type C-type lectin in inflammatory skin diseases

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 善家, 由香理 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002726 |

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2439 号

Possible involvement of innate immune cells expressing the macrophage galactose-type C-type lectin in inflammatory skin diseases

炎症性皮膚疾患においてマクロファージガラクトース型C型レクチンを発現する自然免疫細胞が関与する可能性

善家 由香理 (ぜんけ ゆかり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、マクロファージガラクトース型C型レクチン (MGL/CLEC10a/CD301) を発現する自然免疫細胞が炎症性皮膚疾患に関与する可能性について始めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。本研究では、ヒト皮膚における MGL+細胞の分布を調べて定量化し、炎症性皮膚疾患における臨床的なパラメーターとの関連を検討し、更に、MGL+細胞の種類を同定するため、自然免疫細胞亜集団マーカーとの共染色が行われた。免疫組織学的検討では、MGL+細胞は健常皮膚 (HC) にも存在し、アトピー性皮膚炎 (AD) と乾癬 (Pso) の炎症性皮膚では、MGL+細胞数が有意に多いことが示され、炎症に伴い集積するか、MGL 発現が誘導される可能性が示された。また、AD では、血清 TARC/CCL17 値、血清 IgE 値、及び皮膚組織中の TARC/CCL17 陽性細胞数と、MGL+細胞数が正の相関を示した点から、TARC/CCL17 と IgE を特徴とする Th2 応答との関わりが示唆される興味深い結果であった。更に蛍光多重染色を用いた検討では、MGL+細胞は主に CD1c 陽性の樹状細胞であり、一部 CD1a 陽性樹状細胞あるいはマクロファージ (Mφ) にも発現していた。一部 AD の表皮内にも CD1a または CD1c 陽性の MGL+細胞が観察される症例があり、MGL を発現する樹状細胞もしくは Mφ は炎症性皮膚疾患の病態形成に関与している可能性が強く示唆される有意義な結果であった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。